

# **Osmo** 塗布液滴下観察結果

**Osmo** 塗布の際の滴下液が水中生物（淡水魚）  
に与える影響の確認

平成 22 年 9 月

株式会社リナック八千代

## Osmo の水中生物（淡水魚）への影響について

### 【概要】

Osmo を施工する際に、河川等に余剰液が滴下した際の影響について検証する。

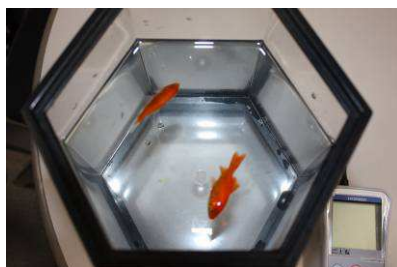
### 【検証方法】

#### 試験 I

金魚を水槽に入れ、Osmo の希釈液を滴下させ、その影響を観察した。水槽には、3ℓの水道水を入れ、金魚を2匹放し、少し時間を経過させ、馴染ませたところで、希釈液を一定量ずつ加え、様子を見ながら、量を増やしていった。

スタート時：水温 22℃、水道水 pH8.3

- ①希釈液 20ml滴下（混入割合 0.67%）  
異常なし、元気に泳いでいる。
- ②5分経過後、希釈液 20ml追加滴下（混入割合 1.33%）  
異常なし、元気に泳いでいる。
- ③5分経過後、希釈液 20ml追加滴下（混入割合 2.00%）  
やや元気が無くなるが、普通に泳いでいる。



## 試験Ⅱ

試験Ⅰでは5分間隔で混入量を増加させ観察した。試験Ⅱでは混入割合を0.5%（3ℓに対し、15mℓ混入）にして、数日観察をした。

スタート時：水温 21℃、水道水 pH8.3

①希釈液 15mℓ滴下（混入割合 0.50%） pH10.2

3日経過後、元気に泳いでいる。現時点での pH は 9.7 である。



## 【結論】

試験Ⅰでの限界値は 1m 四方、水深が 30 cmの水量と仮定した場合、Osomo の希釈液が 6.0ℓ滴下した量となる。

試験Ⅱでの場合は 1m 四方、水深が 30 cmの水量と仮定した場合、Osomo の希釈液が 1.5ℓ滴下した量となる。

Osomo の標準塗布量は 1m 四方で希釈液 200mℓであり、試験Ⅰの場合は約 30 倍、試験Ⅱでは 7.5 倍の量に当る。洗浄水及び塗布後の湧出試験は財団法人日本食品分析センターでの試験結果により無害であると分析されている。

実施工ではこのような量を滴下することはないため、河川や海洋の水中生物への影響は無いと言える。

以上